

# 令和3年度峰延地域農業再生協議会 水田収益力強化ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は主食用米の作付面積が本地面積の約4割、非主食用米を含めた水張面積は約5割を占める水田地帯となっている。今後は水張面積の維持・確保を図りつつ、需要に応じた生産による収益性を強化する為、地域の転作の主品目である小麦を中心に転作作物の収益性の確保をいかに行うかが課題となっている。小麦については、連作障害等により近年は収量が伸び悩む傾向にある為、大豆を中心に、なたねやそば・甜菜等を輪作体系に取り入れ、収量の向上を図る。特に大豆に関しては小麦の過作を解消する為に導入の推進を図っており所得の向上に直結する事から、今後も産地として積極的に収量・品質の向上に向けて推進していく。また、野菜、花卉、果樹といった高収益作物については、消費者ニーズに合わせた品目の導入により複合経営としての所得向上に努める。なお、連合会長会議等を活用し、制度の周知徹底・ビジョンの実現に向けて検討を行う。

## 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域は水田地帯である事から、収量が安定して確保できる水田農業と転換作物の複合経営により収益性の確保を図る必要がある。転換作物としては、労働力を勘案して作業の機械化による効率化を図る事が出来る小麦や大豆等の土地利用型作物に組み合わせ、主食用米と比較して面積当たりの所得が高い野菜等の高収益作物の導入を推進しているが、現状水田作に占める高収益作物の作付率は約2%と低く、今後伸張の余地がある。

今後、水田をフル活用しながら、多様なニーズに対応した競争力のある農産物の計画的かつ安定的な生産・供給が可能な産地づくりを一層進める為、農協を始めとした各関係機関と連携し、産地交付金を活用しながら高収益作物の導入を推進する。

高収益作物の導入に当たっては、需要が増加している野菜の導入及び生産拡大や、消費者のニーズに対応した品目の作付、高品質で安定した生産による産地ブランドの形成、地域に適応した栽培技術の普及・改善、スマート農業等も含めた省力・低コスト化生産技術の導入、出荷・販売体制確立の為の販売対応推進等の取組を通じて、特色ある産地づくりや、収益力向上による経営の安定化を取り進める。

## 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当地域は水田地帯であり、経営の安定化を図る為には水張面積の維持・確保が必要となる。米の生産性が高い事や機械設備が整っている事を踏まえ現状畑地化を進める予定はないが、1戸当りの経営面積の増加により転作率は年々向上しており、今後も耕作放棄地を発生させないよう取組を推し進めていく必要がある。水田の有効利用による収益性の安定及び向上の取組としては、水張転作を含めた輪作体系の確立推進により収量及び品質の向上を図るとともに、各戸の労働力や経営状況に応じた作物の選定等の営農支援を行う。また、国営・道営・団体営による圃場整備事業を年次計画で取り組んでおり、水田における効率的な生産に向けて継続して支援を取り進めて行く。併せて人・農地プランによって描かれた地域の将来像に沿って、地域の中心となる担い手への農地集積を推進し、耕作放棄地の解消及び発生防止を図りながら、水田の有効利用に向けて取り進めていく。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

実需者ニーズに即した「安全・安心」の提供を図るため高品質米の生産向上は必須であり、併せてYES!cleanの取組面積拡大や環境保全型農業の推進を強化し、需要に応じた生産を考慮しながら、「売れる米づくり」に向けた産地の確立を一層取り進めていく。

### (2) 備蓄米

需要に応じて適切に対応致したい。

### (3) 非主食用米

#### ア 飼料用米

品種特性（多収性品種）を活かした収量の確保に加え、需要に応じた生産を図る為、一般品種からの切り替えも含めて作付面積を確保するとともに、直播栽培等の省力化・低コスト化に係る取組により所得の向上を図る。

#### イ 米粉用米

現在取り組みはない。

#### ウ 新市場開拓用米

非主食用米の取り組みによる水張面積の確保を図り、需要に応じた生産に向けて販路拡大及び安定供給を行える産地の形成を目指す。

#### エ WCS用稲

直播栽培等を行い、省力化や低コスト化に努め、面積維持を図る。

#### オ 加工用米

加工用米を中心に非主食用米の取り組みによる水張面積の確保を図り、需要に応じた生産に向けて安定供給を行える産地の形成を目指す。

### (4) 麦、大豆、飼料作物、甜菜、小豆

麦については、透排水性の改善、適期播種、適量施肥・防除、土壌分析に応じた土壌改良等を継続的に実施する事により品質及び収量の向上に努める。大豆、甜菜、小豆については、湿害に弱い事から透排水性の改善を図りながら面積の拡大を推進し、地域として輪作体系の確立を図る必要がある。また、飼料作物については、適期播種を継続して行い、畜産農家への安定供給を図っていく。

### (5) そば、なたね

そばについては、透排水性の改善を図るとともに、適期播種や防除の情報提供を行い、単収の向上・安定化を図る。なたねについては、防除の回数や肥料の量が少なく、低コストによる所得向上が実現できる作物として、面積拡大を図っていく。

### (6) 高収益作物

地元量販店との連携により地産地消を推進しながら、需要にあった作付を行い、複合経営による所得向上を図る。（品目は別紙）

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	1,696.09	1,336.96	1,319.90
備蓄米	0	0	0
飼料用米	150.87	396.63	410.00
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	3.77	43.29	50.00
WCS用稲	28.37	31.75	35.00
加工用米	206.59	209.62	211.57
麦	1,039.27	1,005.18	1,010.00
大豆	433.98	483.28	500.00
飼料作物	2.42	2.42	2.42
・子実用とうもろこし	0	0	0
そば	13.98	9.69	17.00
なたね	1.20	1.16	1.70
高収益作物	61.65	63.64	80.00
・野菜	57.45	59.39	75.00
・花き・花木	2.37	2.64	3.00
・果樹	1.83	1.61	2.00
その他	155.28	202.30	145.50
・甜菜	3.83	2.85	4.00
・小豆	1.08	0.61	1.50
・地力増進作物	150.37	198.84	140.00
畑地化	0	0	0

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	小麦	収量向上対策助成	作付面積 (ha)	(2年度) 1,039.27	(5年度) 1,010.00
			収量 (kg/10a)	(2年度) 374	(5年度) 540
2	小麦	大豆間作麦 輪作加算	作付面積 (ha)	(2年度) 1,039.27	(5年度) 1,010.00
			収量 (kg/10a)	(2年度) 374	(5年度) 540
3	大豆	収量向上対策助成	作付面積 (ha)	(2年度) 433.98	(5年度) 500
			収量 (kg/10a)	(2年度) 254	(5年度) 310
4	なたね	収量向上対策助成	作付面積 (ha)	(2年度) 1.20	(5年度) 1.70
			収量 (kg/10a)	(2年度) 151	(5年度) 300
5	小麦、大豆、 なたね、そば、 甜菜、野菜	基幹作物輪作加算	作付面積 (ha)	(2年度) 1,549.71	(5年度) 1,607.70
			小麦収量 (kg/10a)	(2年度) 374	(5年度) 540
6	甜菜	基幹作物助成	作付面積 (ha)	(2年度) 3.83	(5年度) 4
			収量 (kg/10a)	(2年度) 6,369	(5年度) 6,800
7	そば	収量向上対策助成	作付面積 (ha)	(2年度) 13.98	(5年度) 17
			収量 (kg/10a)	(2年度) 51	(5年度) 68

8	野菜、花卉、果樹	振興作物助成	作付面積 (ha)	(2年度) 61.65	(5年度) 80
9	小豆	振興作物助成	作付面積 (ha)	(2年度) 1.08	(5年度) 1.5
			収量 (kg/10a)	(2年度) 172	(5年度) 240
10	地力増進作物	地力増進作物助成	取組面積 (ha)	(2年度) 41.61	(5年度) 20
11	地力増進作物	圃場整備促進助成	作付面積 (ha)	(2年度) 108.76	(5年度) 120
12	地力増進作物	小麦・玉葱病害対策 (二毛作)	取組面積 (ha)	(2年度) 167.87	(5年度) 220
13	そば	二毛作助成 (そば)	作付面積 (ha)	(2年度) 53.20	(5年度) 65
14	野菜	二毛作助成 (野菜)	作付面積 (ha)	(2年度) 6.21	(5年度) 20
15	飼料用米	耕畜連携助成 (わら利用)	作付面積 (ha)	(2年度) 150.87	(5年度) 410
			取組面積 (ha)	(2年度) 90.21	(5年度) 144
16	小麦、大豆、そば、なたね、甜菜	土壌分析加算	作付面積 (ha)	(2年度) 1,492.26	(5年度) 1,532.70
			収量 (kg/10a)	(2年度) 374	(5年度) 540
17	なたね	基幹作物助成	作付面積 (ha)	(2年度) 1.20	(5年度) 1.70
	そば	基幹作物助成	作付面積 (ha)	(2年度) 13.98	(5年度) 17
18	新市場開拓用米	新市場開拓用米作付助成	作付面積 (ha)	(2年度) 3.77	(5年度) 50
19	野菜、花卉、果樹	高収益作物等作付加算	作付面積 (ha)	(2年度) 61.65	(5年度) 80
20	小麦、大豆、そば、なたね、甜菜、小豆、野菜、花卉、果樹	転換作物作付加算 (高収益作物・畑作物)	作付面積 (ha)	(2年度) 1,554.99	(5年度) 1,614.20
			小麦収量 (kg/10a)	(2年度) 374	(5年度) 540
21	加工用米、新市場開拓用米、飼料用米、WCS用稲	転換作物作付加算 (水張転作)	作付面積 (ha)	(2年度) 389.60	(5年度) 706.57
			加工用・新市場美唄市収量 (kg/10a)	(2年度) 585	(5年度) 585
			加工用・新市場岩見沢市収量 (kg/10a)	(2年度) 572	(5年度) 585
			飼料用美唄市収量 (kg/10a)	(2年度) 585	(5年度) 585
			飼料用岩見沢市収量 (kg/10a)	(2年度) 572	(5年度) 585
			WCS用稲収量 (kg/10a)	(2年度) 641	(5年度) 590
22	飼料用米	複数年契約加算	作付面積 (ha)	(2年度) 150.87	(4年度) 400
			取組面積 (ha)	(2年度) 138.88	(4年度) 200

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

## 7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり